

平成29年度全国学力・学習状況調査 — 茨城町の

- 全国学力学習状況調査は、
- 国としては、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の改善・充実に生かす。
 - 教育委員会としては、自治体や学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かす。
 - 学校としては、個々の児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすとともに、学校全体としての指導方法の検証改善につなげる。
 - このような取り組みをとおして、教育に関する継続的な検証・改善サイクルを確立する。
- 以上のようなことを目的として実施しています。毎年小学6年生と中学3年生を対象としており、国語、算数・数学は毎年、理科は3年に1度の実施となります。平成31年度には新たに英語が実施されます。
- ・ **A問題…身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など**
 - ・ **B問題…知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など**

教科に関する調査

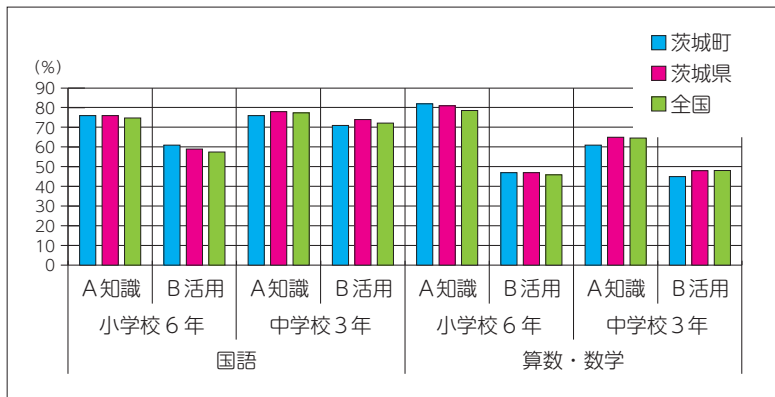
国語

1 小学校（参加児童数248人）

- ・ A問題、B問題ともに全国平均を上回ることができました。特に「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、普段の授業で、自分の考えを伝えたり、相手の考えをよく聞いたりする「学び合い」に取り組んでいる結果が出てきていると考えられます。
- ・ 「書くこと」については苦手意識があるようです。目的や意図に応じて、根拠を明確にして自分の考えを書き、説得力のある表現を身に付けさせていきます。

2 中学校（参加生徒数276人）

- ・ A問題、B問題ともに全国平均を下回ってしまいました。
- ・ 相手に分かりやすいように語句を選択して話すことや文章の表現の工夫について、自分の考えを書くことに課題が見られました。自分の考えをもち、人に分かりやすく伝える力を身に付ける必要があります。



算数・数学

1 小学校

- ・ A問題、B問題ともに全国平均を上回ることができました。式・グラフ・表を読み取る力が付いてきています。また、無解答率が低く、問題をあきらめずに頑張って解こうという姿勢が感じられます。
- ・ 見いだした数量の関係を言葉や式を用いて一般化して捉え表現することや、理由を説明する際に判断の根拠を具体的な数値を用いて説明することに課題が見られます。

2 中学校

- ・ A問題、B問題ともに全国平均を下回ってしまいました。無解答率が高く、問題を途中であきらめてしまう傾向にあります。問題文に正対し、質問内容をきちんと理解することが大切です。
- ・ 数学的な表現を用いて説明することや、表やグラフを用いて根拠を明らかにして提案をする活動に課題が見られます。

全 体

右の問題は本年度の小学校算数B問題です。この問題は、月の大きさを身近なものに置き換えて考えるというものです。単純な知識だけではなく、考えを言葉で表す力が求められています。本町の子供達の課題でもあります。

今の教育は、「何を知っているか、何ができるか」という知識・技能の習得だけでなく、「知っていること、できることをどう使うか」という思考力・判断力・表現力等の活用や「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という人間性や学びに向かう力が問われています。

新学習指導要領でうたわれている「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、子供達の「生きる力」を高めていくよう努力します。

月の直径を、硬貨の直径に置き換えて考えます。
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下の通りです。

硬貨の種類とその直径		
1円玉	100円玉	500円玉
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。
下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

1 100円玉
2 500円玉

(H29 小学校算数B問題より)

状況について — 茨城町教育委員会

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

小学校・中学校ともに全国を上回ったもの

質問紙に関しては、全国平均を上回るものが多く、生活習慣・学習環境等の意識が高いことがうかがえます。

家で学校の復習をしている児童生徒は、全国と比較してもかなり高い割合です。家で復習をするということが、小学校・中学校とも習慣化されつつあります。(グラフ①)

自尊感情が低いのが茨城町の課題ですが、それを改善しようと学校でも取り組んでいます。子供達は「先生は認めてくれている」という意識をもっています。さらに、子供達の良い面を認め、育てていきます。(グラフ②)

教科面においては、本町の子供達は自分の考えを伝えることや、学んだことを生活の中に生かしていくことが苦手であるという課題があります。学校でそれらを改善する取り組みにより、子供達の意識が変わってきていることが読み取れます。(グラフ③、④)

小学校・中学校ともに全国を下回ったもの

「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意である」の回答が小中学校とも、全国を下回っています。今、茨城町では、「学び合い」を主体とした授業改善を行っており、グループ活動等で、「自分の考えを伝えやすい集団作り」に取り組んでいます。(グラフ⑤)

また、自尊感情は自分を大切にする上で欠かせません。問題行動等がおこるのも、この自尊感情が低いからと言われます。自分のよさに気づき、そして、他人のよさにも気付く子供達を育てていきます。(グラフ⑥)

今年度、新しく外国との関わりが質問事項に入りました。外国語教育がますます重要視されてきており、来年度より小学校3年生から外国語活動が行なわれるようになります。子供達の興味関心を高められるように取り組んでいきます。(グラフ⑦)

変化する学び

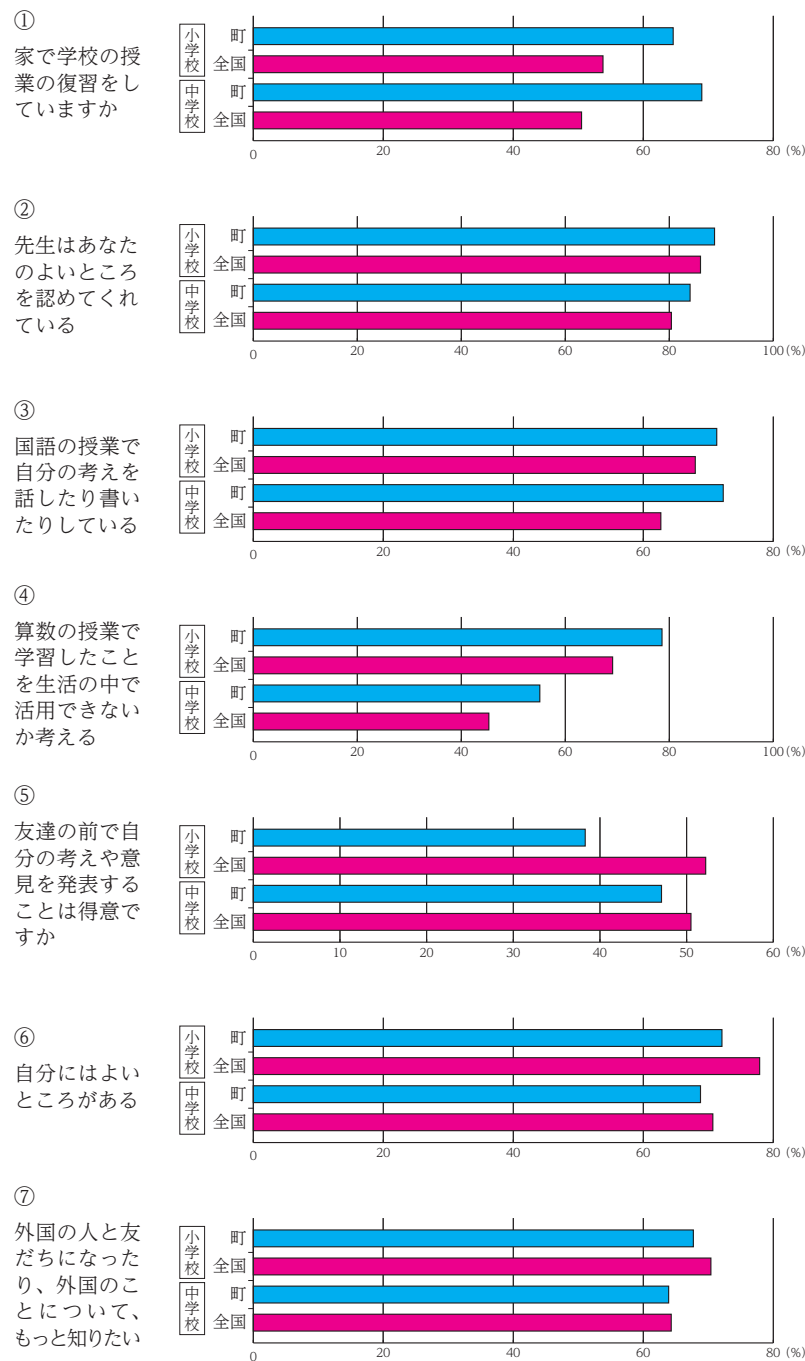
新学習指導要領が公示され、小学校は来年度より移行期間となります。まず、大きく変わるところは「道徳」が「特別の教科」となるところです。これまで、道徳は教科としては扱われていませんでしたが、教科書が配布され、通知表にも評価が記載されることとなります。ただし、評価は数値ではなく、子供達の成長の過程や到達点、今後の課題を記載することになります。

また、外国語活動も小学校3・4年生から実施されることとなります。来年度は、年間15時間の学習となります。5・6年生は、外国語活動が外国語となり、これまで会話中心だった外国語活動に「書く」活動が入り、これまでの35時間+15時間の50時間となります。平成31年度には、小学校3・4年生で年間35時間、5・6年生で70時間の授業となります。さらに、平成32年度からは、プログラミング学習も始まり、ICTが活用される場面も多くなります。

このように小学校の授業が変わることで、中学校の学習も変わっていきます。「主体的・対話的で深い学び」といわれる学習を実現するために、本町教員も研修を行い、授業力向上に努めています。

【問合せ先】 学校教育課 ☎ 029-240-7138 (直通)

※そう思う、どちらかというと思うと回答した児童生徒の割合



来年度使用する道徳の教科書